

レディーミクストコンクリート配合計画書

No. _____

広島トクヤマ生コン株式会社 本社工場 殿

2023年 4月 1日

広島トクヤマ生コン株式会社 本社工場
広島県安芸郡坂町鯛尾一丁目5番3号

配合計画者名 岩井 宏仁

工事名称		広島県生コンクリート工業組合											
所在地													
納入予定時期													
本配合の適用期間 a)		3月1日～5月31日, 10月1日～12月10日, 標準配合。											
コンクリートの打込み箇所		無筋構造物											
配 合 の 設 計 条 件													
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ 又はスランプ フロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号								
	普通	24	8	40	BB								
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載								
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法 b)	BB								
指定事項 (任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	- kg/m ³								
	水の区分	使用材料欄に記載		コンクリートの温度	- °C								
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		水セメント比の目標値の上限	60 %								
	塩化物含有量	0.30 kg/m ³ 以下		単位水量の目標値の上限	- kg/m ³								
	呼び強度を保証する材齢	- 日		単位水量の目標値の下限又は目標値の上限	- kg/m ³								
	空気量	-		流動化後のスランプ増大量	- cm								
使 用 材 料 c)													
セメント	生産者名	日鉄高炉セメント (株)		密度 g/cm ³	3.02	Na ₂ Oeq % d)	-						
混和材①	製品名	-	種類	-	密度 g/cm ³	-	Na ₂ Oeq % e)						
混和材②	製品名	-	種類	-	密度 g/cm ³	-	%						
骨材	No.	種類	産地 又は 品名	アルカリ反応性による区分 f) 試験方法	粒の大きさの範囲 g)	粗粒率又は実積率 h)	密度 g/cm ³ 絶乾表乾	微粒分量の範囲 % i)					
	細①	砕砂	愛媛県今治市大三島町大字肥海産	A 化学法	5mm以下	2.90	2.61 2.64	3.0±2.0					
骨材②	石灰砕砂	大分県津久見市上青江産	A モルタルバー法	5mm以下	3.05	2.64 2.67	7.0±2.0						
骨材③	-	-	-	-	-	-	-						
粗骨材	①	砕石2010	大分県津久見市上青江産	A モルタルバー法	10-20mm	6.92	2.70 2.71	1.5±1.0					
	②	砕石1505	大分県津久見市上青江産	A モルタルバー法	5-15mm	6.27	2.70 2.71	1.5±1.0					
骨材④	③	砕石	愛媛県今治市大三島町大字肥海産	A 化学法	20~40mm	7.98	2.68 2.70	1.0±1.0					
	④	-	-	-	-	-	-	-					
混和剤①	製品名	チューポール EX60	種類	AE減水剤 (標準形 I 種)			Na ₂ Oeq % j)	2.2					
混和剤②	製品名	-	種類	-			%	-					
混和剤③	製品名	-	種類	-			%	-					
細骨材の塩化物量 k)		-		%水の区分 l)	上水道水・上澄水	目標スラッジ固形分率 m)	-						
回収骨材の使用法 n)		細骨材	-	粗骨材	-	安定化スラッジ水の使用の有・無	有・無						
配 合 表 o) kg/m ³													
セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤 p)		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
280	-	-	158	494	331	-	266	266	532	-	1.40	-	-
水セメント比 q)		56.5 %		水結合材比 q)			-%				細骨材率		44.2 %
備考				骨材混合比 (容積混合)		細骨材①:②		粗骨材①:②:③		60.0:40.0 25.0:25.0:50.0			
「修正標準配合として次に示す適用期間の間、混和剤の単位量のみ変更します。」 夏期：6月1日～9月30日 HAE+15% MAE+20% 冬期：12月11日～2月29日 HAE-15% MAE-20% 骨材の質量配合割合、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。													

配合計算書

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号 普通	呼び強度 24	スラブ又はスラブ70- cm 8	粗骨材の最大寸法 mm 40	セメントの種類による記号 BB
指定事項	W/C ≤ 60%				
(1) 変動係数 (v)	当工場の実績により v = 10 %				
(2) 配合強度 (m)	$\alpha_1 = \frac{1}{1 - \frac{2.0 \cdot v}{100}} = 1.25$ $m = \alpha_1 \times SL = 1.25 \times 24 = 30.0 \text{ N/mm}^2$ <p style="text-align: right;">よって m = 30.0 N/mm²</p>				
(3) 水セメント比 (W/C)	$m = -22.4 + 29.8 \times C/W$ $W/C = 29.8 \div (30.0 + 22.4) \times 100 = 56.5 \% \leq [60\% (\text{上限値})]$ <p style="text-align: right;">∴ W/C = 56.5 %</p>				
(4) 単位水量 (W)	当工場の実績により W = 158 kg/m ³				
(5) 単位セメント量 (C)	$C = W \div (W/C) \times 100 = 158 \div 56.5 \times 100 = 280 \text{ kg/m}^3$ $C_v = C \div \text{密度} = 280 \div 3.02 = 93 \text{ L/m}^3$				
(6) 空気量 (A)	A = 4.5 % × 1000 = 45 L/m ³				
(7) 単位粗骨材量 (G)	当工場の実績により かさ容積 = 0.634 m ³ /m ³ 実積率 = 62.0 % $G_v = 0.634 \times 1000 \times 62.0 \div 100 = 393 \text{ L/m}^3$				
	$G1_v = G_v \times 25.0 \% = 98 \text{ L/m}^3$ $G2_v = G_v \times 25.0 \% = 98 \text{ L/m}^3$ $G3_v = G_v \times 50.0 \% = 197 \text{ L/m}^3$				
(8) 単位細骨材量 (S)	$S_v = 1000 - (W + C_v + G_v + A) = 1000 - 689 = 311 \text{ L/m}^3$				
	$S1_v = S_v \times 60.0 \% = 187 \text{ L/m}^3$ $S2_v = S_v \times 40.0 \% = 124 \text{ L/m}^3$				
(9) 細骨材率 (s/a)	s/a = S _v ÷ (G _v + S _v) × 100 = 44.2 %				
(10) 単位混和剤量 (Ad)	Ad = C × 添加率 × 密度 = 280 × 0.5000 % × 1.00 = 1.40 kg/m ³				

配合表 kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
280	-	-	158	494	331	-	266	266	532	-	1.40	-	-
水セメント比	56.5 %		細骨材率	44.2 %			骨材混合比 (容積混合)	細骨材①:② 粗骨材①:②:③			60.0:40.0 25.0:25.0:50.0		

備考

レディーミクストコンクリート配合計画書

No.

2023年 4月 1日

広島トクヤマ生コン株式会社 本社工場 殿

広島トクヤマ生コン株式会社 本社工場
広島県安芸郡坂町鯛尾一丁目5番3号

配合計画者名 岩井 宏仁

工 事 名 称		広島県生コンクリート工業組合											
所 在 地													
納 入 予 定 時 期													
本配合の適用期間 a)		夏期修正標準配合 6月1日～9月30日											
コンクリートの打込み箇所		無筋構造物											
配 合 の 設 計 条 件													
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スラン [°] 又はスラン [°] フー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号								
	普通	24	8	40	BB								
指定事項 必須	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載								
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法 b)	BB								
指定事項 任意	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	- kg/m ³								
	水の区分	使用材料欄に記載		コンクリートの温度	- °C								
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		水セメント比の目標値の上限	60 %								
	塩化物含有量	0.30 kg/m ³ 以下		単位水量の目標値の上限	- kg/m ³								
	呼び強度を保証する材齢	- 日		単位水量の目標値の下限又は目標値の上限	- kg/m ³								
	空気量	-		流動化後のスランプ増大量	- cm								
使 用 材 料 c)													
セメント	生産者名	日鉄高炉セメント (株)		密度 g/cm ³	3.02	Na ₂ Oeq % d)	-						
混和材①	製品名	-	種類	-	密度 g/cm ³	-	Na ₂ Oeq % e)	-					
混和材②	製品名	-	種類	-	密度 g/cm ³	-	Na ₂ Oeq % e)	-					
骨材	No.	種類	産地又は品名	別列別反応性による区分 f)	粒の大きさの範囲 g)	粗粒率又は実積率 h)	密度 g/cm ³		微粒分量の範囲 % i)				
				区分 試験方法			絶 乾	表 乾					
細①	①	砕砂	愛媛県今治市大三島町大字肥海産	A 化学法	5mm以下	2.90	2.61	2.64	3.0±2.0				
骨②	②	石灰砕砂	大分県津久見市上青江産	A モルタルバー法	5mm以下	3.05	2.64	2.67	7.0±2.0				
材③	③	-	-	-	-	-	-	-	-				
粗骨	①	砕石2010	大分県津久見市上青江産	A モルタルバー法	10-20mm	6.92	2.70	2.71	1.5±1.0				
												②	砕石1505
材④	③	砕石	愛媛県今治市大三島町大字肥海産	A 化学法	20~40mm	7.98	2.68	2.70	1.0±1.0				
												④	-
混和剤①		チューポールEX60R	AE減水剤 (遅延形 I 種)				Na ₂ Oeq % j)		1.9				
混和剤②	製品名	-	種類	-				Na ₂ Oeq % j)		-			
混和剤③	製品名	-	種類	-				Na ₂ Oeq % j)		-			
細骨材の塩化物量 k)		-		%水の区分 l)	上水道水・上澄水	目標スラッジ 固形分率 m)		-					
回収骨材の使用法 n)		細 骨 材	-	粗 骨 材	-	安定化スラッジ水の使用の有・無							
配 合 表 o) kg/m ³													
セメント	混 和 材		水	細 骨 材			粗 骨 材				混 和 剤 p)		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
280	-	-	158	494	331	-	266	266	532	-	1.68	-	-
水セメント比 q)		56.5 %		水結合材比 q)			-%				細 骨 材 率		44.2 %
備考				骨材混合比 (容積混合)		細骨材①:②		60.0:40.0					
						粗骨材①:②:③		25.0:25.0:50.0					
「修正標準配合として次に示す適用期間の間、混和剤の単位量のみ変更します。」 夏期：6月1日～9月30日 HAE+15% MAE+20% 冬期：12月11日～2月29日 HAE-15% MAE-20% 骨材の質量配合割合、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合があります。													

配合計算書

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号 普通	呼び強度 24	スランジ又はスランジフリー cm 8	粗骨材の最大寸法 mm 40	セメントの種類による記号 BB
指定事項	W/C ≤ 60%				
(1) 変動係数 (v)	当工場の実績により v = 10 %				
(2) 配合強度 (m)	$\alpha_1 = \frac{1}{1 - \frac{2.0 \cdot v}{100}} = 1.25$ $m = \alpha_1 \times S_L = 1.25 \times 24 = 30.0 \text{ N/mm}^2$ よって m = 30.0 N/mm ²				
(3) 水セメント比 (W/C)	$m = -22.4 + 29.8 \times C/W$ $W/C = 29.8 \div (30.0 + 22.4) \times 100 = 56.5 \% \leq \text{【60\% (上限値)】}$ $\therefore W/C = 56.5 \%$				
(4) 単位水量 (W)	当工場の実績により W = 158 kg/m ³				
(5) 単位セメント量 (C)	$C = W \div (W/C) \times 100 = 158 \div 56.5 \times 100 = 280 \text{ kg/m}^3$ $C_v = C \div \text{密度} = 280 \div 3.02 = 93 \text{ L/m}^3$				
(6) 空気量 (A)	A = 4.5 % × 1000 = 45 L/m ³				
(7) 単位粗骨材量 (G)	当工場の実績により かさ容積 = 0.634 m ³ /m ³ 実積率 = 62.0 % $G_v = 0.634 \times 1000 \times 62.0 \div 100 = 393 \text{ L/m}^3$ $G1 = G1v \times \text{表乾密度} = 98 \times 2.71 = 266 \text{ kg/m}^3$ $G2 = G2v \times \text{表乾密度} = 98 \times 2.71 = 266 \text{ kg/m}^3$ $G3 = G3v \times \text{表乾密度} = 197 \times 2.70 = 532 \text{ kg/m}^3$				
(8) 単位細骨材量 (S)	$S_v = 1000 - (W + C_v + G_v + A) = 1000 - 689 = 311 \text{ L/m}^3$ $S1v = S_v \times 60.0 \% = 187 \text{ L/m}^3$ $S1 = S1v \times \text{表乾密度} = 187 \times 2.64 = 494 \text{ kg/m}^3$ $S2v = S_v \times 40.0 \% = 124 \text{ L/m}^3$ $S2 = S2v \times \text{表乾密度} = 124 \times 2.67 = 331 \text{ kg/m}^3$				
(9) 細骨材率 (s/a)	s/a = S_v ÷ (G_v + S_v) × 100 = 44.2 %				
(10) 単位混和剤量 (Ad)	Ad = C × 添加率 × 密度 = 280 × 0.6000 % × 1.00 = 1.68 kg/m ³				

配合表 kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
280	-	-	158	494	331	-	266	266	532	-	1.68	-	-
水セメント比	56.5 %		細骨材率	44.2 %			骨材混合比 (容積混合)		細骨材①:② 粗骨材①:②:③		60.0:40.0 25.0:25.0:50.0		

備考

レディーミクストコンクリート配合計画書

No. _____

2023年 4月 1日

広島トクヤマ生コン株式会社 本社工場 殿

広島トクヤマ生コン株式会社 本社工場
広島県安芸郡坂町鯛尾一丁目5番3号

配合計画者名 岩井 宏仁

工事名称		広島県生コンクリート工業組合											
所在地													
納入予定時期													
本配合の適用期間 a)		冬期修正標準配合 12月11日～2月29日											
コンクリートの打込み箇所		無筋構造物											
配合の設計条件													
呼び方	コンクリートの種類による記号		呼び強度		スランフ又はスランフ70-cm		粗骨材の最大寸法 mm			セメントの種類による記号			
	普通		24		8		40			BB			
指定事項 必須	セメントの種類		呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法			呼び方欄に記載					
	骨材の種類		使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法 b)			BB					
指定事項 任意	骨材の別加減反応性による区分		使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量			- kg/m ³					
	水の区分		使用材料欄に記載		コンクリートの温度			- °C					
	混和材料の種類及び使用量		使用材料及び配合表欄に記載		水セメント比の目標値の上限			60 %					
	塩化物含有量		0.30 kg/m ³ 以下		単位水量の目標値の上限			- kg/m ³					
	呼び強度を保証する材齢		- 日		単位水量の目標値の下限又は目標値の上限			- kg/m ³					
空気量		- %		流動化後のスランプ増大量			- cm						
使用材料 c)													
セメント	生産者名	日鉄高炉セメント(株)				密度 g/cm ³	3.02	Na ₂ Oeq % d)	-				
混和材①	製品名	-		種類	-		密度 g/cm ³	-		Na ₂ Oeq % e)	-		
混和材②	製品名	-		種類	-		密度 g/cm ³	-		Na ₂ Oeq % e)	-		
骨材	No.	種類	産地又は品名	別加減反応性による区分 f)		粒の大きさの範囲 g)	粗粒率又は実積率 h)	密度 g/cm ³		微粒分量の範囲 % i)			
				区分	試験方法			絶乾	表乾				
細骨材①	砕砂	愛媛県今治市大三島町大字肥海産		A	化学法	5mm以下	2.90	2.61	2.64	3.0±2.0			
骨材②	石灰砕砂	大分県津久見市上青江産		A	モルタルバー法	5mm以下	3.05	2.64	2.67	7.0±2.0			
材③	-	-		-	-	-	-	-	-	-			
粗骨材	①	砕石2010	大分県津久見市上青江産		A	モルタルバー法	10-20mm	6.92	2.70	2.71	1.5±1.0		
	②	砕石1505	大分県津久見市上青江産		A	モルタルバー法	5-15mm	6.27	2.70	2.71	1.5±1.0		
骨材	③	砕石	愛媛県今治市大三島町大字肥海産		A	化学法	20~40mm	7.98	2.68	2.70	1.0±1.0		
	④	-	-		-	-	-	-	-	-			
混和剤①	製品名	チューポール EX60		AE減水剤(標準形I種)			Na ₂ Oeq % j)		2.2				
混和剤②	製品名	-		-			Na ₂ Oeq % j)		-				
混和剤③	製品名	-		-			Na ₂ Oeq % j)		-				
細骨材の塩化物量 k)		-		%水の区分 l)		上水道水・上澄水	目標スランジ 固形分率 m)		-				
回収骨材の使用法 n)		細骨材	-		粗骨材	-		安定化スランジ水の使用の有・無					
配合表 o) kg/m ³													
セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤 p)		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
280	-	-	158	494	331	-	266	266	532	-	1.12	-	-
水セメント比 q)		56.5 %		水結合材比 q)		-		細骨材率		44.2 %			
備考					骨材混合比(容積混合)		細骨材①:②		60.0:40.0				
							粗骨材①:②:③		25.0:25.0:50.0				
<p>「修正標準配合として次に示す適用期間の間、混和剤の単位量のみ変更します。」 夏期：6月1日～9月30日 HAE+15% MAE+20% 冬期：12月11日～2月29日 HAE-15% MAE-20% 骨材の質量配合割合、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。</p>													

配合計算書

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号 普通	呼び強度 24	スラブ又はスラブロー cm 8	粗骨材の最大寸法 mm 40	セメントの種類による記号 BB
指定事項	W/C ≤ 60%				
(1) 変動係数 (v)	当工場の実績により v = 10 %				
(2) 配合強度 (m)	$\alpha_1 = \frac{1}{1 - \frac{2.0 \cdot v}{100}} = 1.25$ $m = \alpha_1 \times S_L = 1.25 \times 24 = 30.0 \text{ N/mm}^2$ <p style="text-align: right;">よって m = 30.0 N/mm²</p>				
(3) 水セメント比 (W/C)	$m = -22.4 + 29.8 \times C/W$ $W/C = 29.8 \div (30.0 + 22.4) \times 100 = 56.5 \% \leq [60\% (\text{上限値})]$ <p style="text-align: right;">∴ W/C = 56.5 %</p>				
(4) 単位水量 (W)	当工場の実績により W = 158 kg/m ³				
(5) 単位セメント量 (C)	$C = W \div (W/C) \times 100 = 158 \div 56.5 \times 100 = 280 \text{ kg/m}^3$ $C_v = C \div \text{密度} = 280 \div 3.02 = 93 \text{ L/m}^3$				
(6) 空気量 (A)	$A = 4.5 \% \times 1000 = 45 \text{ L/m}^3$				
(7) 単位粗骨材量 (G)	当工場の実績により かさ容積 = 0.634 m ³ /m ³ 実積率 = 62.0 % $G_v = 0.634 \times 1000 \times 62.0 \div 100 = 393 \text{ L/m}^3$				
	$G_{1v} = G_v \times 25.0 \% = 98 \text{ L/m}^3$ $G_{2v} = G_v \times 25.0 \% = 98 \text{ L/m}^3$ $G_{3v} = G_v \times 50.0 \% = 197 \text{ L/m}^3$	$G_1 = G_{1v} \times \text{表乾密度} = 98 \times 2.71 = 266 \text{ kg/m}^3$ $G_2 = G_{2v} \times \text{表乾密度} = 98 \times 2.71 = 266 \text{ kg/m}^3$ $G_3 = G_{3v} \times \text{表乾密度} = 197 \times 2.70 = 532 \text{ kg/m}^3$			
(8) 単位細骨材量 (S)	$S_v = 1000 - (W + C_v + G_v + A) = 1000 - 689 = 311 \text{ L/m}^3$				
	$S_{1v} = S_v \times 60.0 \% = 187 \text{ L/m}^3$ $S_{2v} = S_v \times 40.0 \% = 124 \text{ L/m}^3$	$S_1 = S_{1v} \times \text{表乾密度} = 187 \times 2.64 = 494 \text{ kg/m}^3$ $S_2 = S_{2v} \times \text{表乾密度} = 124 \times 2.67 = 331 \text{ kg/m}^3$			
(9) 細骨材率 (s/a)	$s/a = S_v \div (G_v + S_v) \times 100 = 44.2 \%$				
(10) 単位混和剤量 (Ad)	$Ad = C \times \text{添加率} \times \text{密度} = 280 \times 0.4000 \% \times 1.00 = 1.12 \text{ kg/m}^3$				

配合表 kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
280	-	-	158	494	331	-	266	266	532	-	1.12	-	-
水セメント比	56.5 %		細骨材率	44.2 %			骨材混合比 (容積混合)	細骨材①:② 粗骨材①:②:③			60.0:40.0 25.0:25.0:50.0		

備考